1959年1月31日第3種郵便物認可

週刊 うたごえ新聞

4／17 (1989年)

NO. 1251

THE SINGING VOICE OF JAPAN

日本のうたごえ全国協議会機関紙
うたごえ新聞社
〒169 東京都新宿区大久保2—16—36
☎ 03 (209) 0638 FAX 03 (200) 0105
振替口座 東京2-5631 毎週月曜日発行
1部120円(〒25円)・月480円(〒120円)

第22回日本のうたごえ全国協議会総会開催

うたの魅力を輝かせ一層、人々のつなぎ手に

30都道府県234名参加

寿岳章子さん(元・京都府立大教授/'89日本のうたごえ祭典inKYOTO実行委員長)ら来賓も

四十周年記念日本のうたごえ祭典を成功させ迎えた第二十二回日本のうたごえ全国協議会総会は全国三十都道府県、七産別の代表二百三十四名を集め、四月一日、二日の両日、京都で開かれました。

総会開会にあたって全国協議会浜島幹事長は、「今総会は四十周年運動をふり返り、激動する今日の情勢、とくに今日から、国民の生活を圧迫する消費税が導入されるという中で、うたごえが新たになにをなすべきかを問い、九〇年代にむけてどういう運動をつくりだしていくのか、運動創立五十周年にむけての新たな第一歩を記す総会にしていこう」とあいさつ。

これを受けて、四十周年祭典総括の提案。企画委員長の守屋博之氏より、成果をひきつぎ発展させるために何が必要か、いい活動があれば人は集まる、しかし、そこにもっとステキな歌があればもっと人は集まる。我々が武器にしている歌そのものを掘り下げ深める努力を、そのために深める論議を、と提起。つづいて、四十周年運動のまとめ、第二十二回総会方針が提案され、二日間に渡る討論にはいりました。

今総会では特徴の一つに六十三通という多くの発言通告が寄せられ、内、三十名が発言しましたが、第十七回総会で掲げられた〝運動の源泉を輝かせ新たな飛躍を〟の活動実践、その成果が今総会に持ち寄られたことを示しています。(発言内容続報)

創立時から活動の元全国協議会幹事長の藤本洋氏はサークル建設、指導にあたる現在の活動を報告しながら、この四十一年、一番大切にしてきたこと「世界の平和と人類の進歩のためにうたごえを広げる」ことは今も変らぬ、還暦をむかえる年になったが、まだまだ若い者には負けないぞ、と元気な発言がありましたが、今総会には若い仲間の積極的な発言が多かったことも一つの特徴でした。

名古屋青年合唱団の専従への決意を語る武藤佳子さん。

「学生で時間がある、行けと言われ、京都見物でもしようと思い総会に来たが帰ったら真剣にやろうと思う」と発言した秋田合唱団の高坂努さん。「学生のうたごえ弱体をなんとか克服したい。学生に運動の確信を」と学生の雨田信幸さん。

第三回国連軍縮特別総会代表派遣にサークルが集中してとりくんだ感動を語る筑波たんぽぽの滝嶋晶子さん。

また、八七年祭典埼玉以降全国祭典地方都市開催の夢は広がり、今総会でも九〇年兵庫につづいて、神奈川、宮城の代議員からも具体的検討の報告等、運動四十年の蓄積、その中での豊かな経験、新しい運動の芽が各地から伝えられました。

来賓各氏からも、井上頼豊氏は、四十周年祭典成功、その今日的展開と成果、国民を主人公とする音楽運動、音楽を大切にするあまり主人公を見失なわないように、納得いくまで追求を、謙虚に自らを顧りみる姿勢を等提言を。

また、今年の京都祭典開催にむけ、八九年祭典実行委員会の寿岳章子さん(元京都府立大教授)は「平和の讃歌を高らかに、働く者の喜びを、上から下りてくるものではなく私たちの歌を」、新日本婦人の会の西垣昭子さんからは、「民主府政をとり戻す力に、新婦人は百のコーラス小組千人の舞台で秋の祭典を」、自らも合唱団今若者の団員である国鉄労働組合の木嶋浩二委員長は、「秋には百人の〝今若者〟の舞台を。階級闘争の中で持つ文化の意味、その力で労働者、国民の心をつかむのは我々だと確信をもって、新しい政治の流れをつくる力に」と、京都文連会長の須田稔氏は「京町衆の人々の生きる喜び、まちづくりのうたを」とあたたかい励ましと、共に祭典をつくる連帯のあいさつをいただきました。

十一団体からの祝電、メッセージ等、内外の期待と討論の中で、第二十二回総会方針並びに総括、八八年度決算、八九年度予算を採択。森のコーラス(埼玉)を初め三十サークル・合唱団の新加盟団体、国鉄労働者の広域配転で閉団した岩見沢動輪合唱団(北海道)等二団体の退会の承認。

四十周年運動と八八年度優秀団体として国鉄広島ナッパーズ、三多摩青年合唱団、神戸市役所センター合唱団、東京、広島、長崎のうたごえ協議会に。うたごえ新聞ブルーペン賞は長崎センター合唱団の園田鉄美さん、大阪支局の中尾孝さんらがそれぞれ表彰されました。

メーデー歌集の普及、消費税反対のアピールを拍手で確認。

新役員には東京・南部合唱団の酒井英夫氏ら四名を加え新役員三十七人を選出。

秋の祭典、九〇年代の運動五十周年にむけ、共にがんばろうと決意をこめ、「そんな街を」の全員合唱で第二十二回全国総会は閉会しました。

目色ともゑさんに聞く (記事4・5面)

ふめんだい

総会に活気があるかどうかは直接、議事に参加していなくとも伝わってくる。休憩時間や、夜、飲みながらの雑談の中にも、まちがいなくそれは反映される。

☆ ★ ☆

筆者自身、今年の総会では、裏方に徹したこともあって、まったく発言や報告を聞けなかった。そのかわりと言ってはなんだが、時間をみつけては全国からの参加者をつかまえて(失礼)話を聞くようにつとめた。

☆ ★ ☆

そのおかげで、総会前後は連日、睡眠時間三、四時間で過ごしたわけだが、そんな雑談の中で、公(おおやけ)の場ではなかなか聞けない悩みや裏話なども聞かせてもらった。

中でも、京都の専従者集団の様々な話には、筆者自身の問題意識とも重なって大変触発された。

☆ ★ ☆

一人ひとりが具体的な目標と意志をもち、一人ひとりが安心して羽ばたける経営的裏づけを、府民に依拠しつつ専従者の協同の力で実現し、その上で、もともと異なっているそれぞれの個性を認め合いながら、一つの目的にむかって集団として団結していく——筆者が感じたのはそんな事だと思う。

☆ ★ ☆

満開の桜といい、総会後の日本のうたごえ祭典実行委員会の熱気といい、すがすがしい京都の日々であったが、ただ一つ京料理だけは合いそうにない。(F)